磐城調査新報

發行日隨時
編輯印刷發行人　馬目雅治
福島縣石城郡平町紺屋町二十九番地
發行所　磐城調査新報社
電話三二六番
廣告料　五號十四字詰一行卅錢　場所指定倍錢增
新聞定價　一部十錢　一ヶ月廿錢

年頭所感

麥人生

元旦、床を蹴つて新光に直面した時、たれか「本年こそは」と輝かしい希望に向つて精進せんと心に決せぬ者とてはあるまい、勿論自分も其一人たる事は言を俟たない。

昭和三年初頭に於て、腦裡に深く印して遂行を期した諸般の劃策は果して順調に決行し得たるか、今や新春第一日に、省みて過去一ケ年の收穫を想ふ時、冷汗三斗の感を深うするものである。

わづかに、當時主宰してゐた植田電氣會社に對する電燈料金及電球引換料値下げ運動は、不幸政戰に禍ひされて中絶の止むなきに至つたが、つひに電球引換料に於て十五錢の低下を見たること、普選第一回の總選擧に際し黨人として一文筆勞働者として其のベストを盡して比佐昌平君のため奮鬪し榮冠を得せしめたるは、共に實際運動としての貧しい收穫であつた。

引續いて突如石城郡下を襲うたる經濟受難に際し、先づ旬刊十二社より成る財界安定促進會を起し、其後十一月十九日に平銀の休業を見るや、革新聯盟の一員としていさゝか鄕土財界に貢献したるは、自分の天分を恥かしめざるものであつたと自ら慰め得らるゝに過ぎない。

希望と理想の徒らに大にして、其の成し得たるものゝ甚だ僅少なる昭和三年は輕い失望と悔恨を乘せて永遠にサヨウナラをした。

前途暗憺たる石城財界の多難なるは、萬人等しく余震を恐るる罹災民の如き感を以つて臨む處であり、自分のなす可き天職はこゝにも開拓の余地は大きい。

五月に火蓋を切つて放さるゝ各町村會議員の改選は、地方自治体の基調を決するものとして、自分等の奮鬪の時であらねばならぬ。

眞理は羅針であり、勇氣は原動力である、愛と希望を糧と力にせんと昨春年頭感した自分は、今パツキリ「正しく強く」の一言を標語として進む事を誓ふ。

己歳生れの石城の二巨星

炭礦王　小田吉治氏

不況悲觀の炭礦界に於て、一決して遇然ではない、時々平町人獨特の經營方針と不斷の努力に出て來る氏は、必ず歸途豚肉との結果、常に多大の利益を上げ、年々歳々驚異的大發展をなしつゝある、炭礦王小田吉治氏は、本年四度目の巳歳を繰り返して四十九歳の春を迎へる事に成つた。氏は人も知る秋田の産若冠より生活の荒波に掉さして或は坑夫に、大工に、鍛冶屋工に、あらゆる生の試練を征服して今日の富、血と汗とよりなる三百萬の黄金の山を築いた事は世間周知の事實である。

氏は、奮鬪の人たると共に熱血義俠、徹頭徹尾人情の人である。されば同氏の下に働く幾千の人々は皆氏の家族となり氏自身と同じ働きを以つて目的に向つて猛進する。不況ドン底の炭礦界に獨り覇を稱へつゝあるも

ヨと鹽鮭をしこたま脊負こんだ
變な格好を見受ける、これはみ
な從業員の家庭に贈物する氏の
やさしい心ざしである。

記者は例年の通り、元旦星を
いたゞいて年始に好間村の氏を
訪れると、電燈眞晝の如き下に
昭和四年度の事業計畫を作つて
ゐる。氏の事業に對する眞劍さ
が躍如たるではないか。

昨年好間元山に進出した氏は
或は本年更らに茨城無煙に進出
を期してゐるとか、火の消へた
樣な石城事業界に一点の曙光を
與へるものは、氏を措いては一
寸見當らぬ。折角の自愛を祈る
は記者ばかりではあるまい。

釜屋若主人　諸橋守次氏

平町、否縣下の大富豪としてだにせず、仰げば富嶽の如く嚴然と石城經濟界に君臨する釜屋商店の、病父にかわつて統率の任にある諸橋守次氏は、やはり己歳生れの三十七歳の初春をむかへたのである。

氏は磐中卒業後東都に遊學早稲田の學園を出て故山に歸り、專心家業に沒頭しつゝある經濟人である。氏は常に豪放、得意のウワツハ、、と豪傑笑ひをぶつ放して剛腹振りを發揮してゐるが、一面女にも見られぬ細心な注意と、哲人らしい洞察力と理性の所有者である。

故に如何なる階級の人でも氏と接して不快を感ずる者はあるまい、而も令弟元三郎氏の聰明にして冷靜なる伴奏者を持つ氏は、後顧の憂ひなく各方面に飛躍を續ける事が出來るのである。

多幸にして前途限りなき氏は現代の寵兒として誰れかこれを否定し得やうぞ。

郡下一の富豪として、青年經濟人として、政治理解者として氏の全盛時代は近い將來に待つてゐる。

謹賀新年

釜屋商店　諸橋守次　諸橋元三郎
小田吉治
石城郡銀行組合
山崎與三郎
高岡唯一郎
四倉會社銀行組合
中野甲藏
小野晋平
植田水力電氣株式會社　社長　金成通
東部電力株式會社　平營業所

起債の可否が分岐点
小名濱埋立問題
町民は冷靜に考へよ

小名濱町小野晋平氏は同町元製鹽場附近砂漠地及び其の前方海面を埋立して約四萬二千九百坪の土地を作り、それを利用して一大水産品加工々場を設立せんと目論見、まづその海面埋立の許可を縣當局に出願し着々準備中の處、同町一部の人々はこの擧に猛烈なる反對を稱へ、町民大會を開くやら、出縣陳情をなす等種々運動を開始せりと聞くが、同町民としては此の問題は冷靜に事の可否を考へねばなるまい、反對側の云ひ分は、利權を個人に專屬せしむるのは怪しからぬ、町營にせよと云ふ点と小野氏に對する政黨的感情より出でたるものと一般から見られてゐるが、此の埋立事業を完成するには埋立費一坪八圓前後と見ても約三十萬圓の大金を要するもので、はたして同町が町債及び商港寄附金等で苦しんでゐる現今、はたして莫大なる三十萬圓の起債が可能であるかを考へねばなるまい、又可能としても小野氏が町當局に申し出でた六千坪を町へ寄附すると云ふ、一文も資出せずして坪三十圓と見て十八萬圓の町財源を得るのといづれが利益であるかを精密に研究する必要があるではなかつたか。

先年平町に於て、大瀧發電所設置反對の烽火が一部人士によつて打ち揚げられ、それに依つて躍り出した平町民は今や後悔してゐる、國富開發の事業に、感情や政黨一点張りで徒らに反對するは考へ事である。事業の盛なる處必ず町の發展があるものである。

時事笑話

□

年始廻禮者が銀行屋さんを訪れて「……本年も相變らず」とやらかすと、先方眞青になつて「ド、、致しまして、本年はすつかり變りたうございます」

□

二日の夕方、路が凍り固つた新田町を盛裝なまめかしく、カラコロとやつて來た妓さん下駄が滑つてスッテンコロリンと落花浪籍、見てゐた口の惡いのが「ねえさんお金になつたかへ……」

□

七草までに新年會を八ッやつたと自慢顔の男へ「それぢや年を取りすぎるだらう」と云ふと「何ァに家庭爭議が出る程若返つたヨ」

□

時節柄と例年にない小さな鏡餅を作つた處、男の子が「何でイこん度のは小ッポケだナ！」と云ふを一年生の姉が物知り顔に「今年は赤ちやんの正月なんだワヨ」

□

或る宴會で「小山内さんの突然の死は意外だネー」と話してゐると、そばに居た某新妓口を出して「年はいくつなの」

山田綠雨氏 結婚の噂

自ら自由人と稱し、哲學的文章と亂醉とを以て有名なる磐城公論社長山田綠雨氏は、近く東京某富豪の令嬢との奇緣が元となり、陽春四月結婚の式を擧げる運びになつたとは目出度い極みであると周圍の人々が今から噂してゐる。

苦時代味

（四）

婆人生

□

狂風の一夜が明けて、今日はケロリとした快晴、暖い春光が窓の消硝子を透して部屋の中がまぶしい程明るい、宿醉の重い頭を抱へてペンを取る

□

平銀の休業が常磐銀行との合併で預金者が助かる段取りに決まり、兎も角財界の一部に曙光が見え初めたのに、又々百七、福島貯蓄の休銀で石城の天地に暗雲が低迷した。この休銀は福島市の政黨新聞間の爭ひが其一因をなしたと聞くが、苦々しくも困つた事だ

□

同業者間で相爭う事は決していい結果は齎らさぬ、政黨新聞の背景たる金融同業者が御互の揚足取りをオッ初めた事は甚だ策を得ぬもので、遺憾千萬な事ではある。

□

石城の天地でも磐銀、平銀の休業當時盛んに預金賣買が行れたが、其の背後には銀行屋で仲買人に投資して巨利を得たものがあるとの噂がある、噂だけでも不快ではないか、法に抵觸せぬと云つて德義上深く考へねばならぬ事で、利益のために同業德義を忘れる樣な者は最後の審判に決してよい結果は得ないものだ。

□

二月中に平町長の改選がある筈で、もう現町長の再選說と靑沼鋒太郎氏說と暗中飛躍を始めたと聞く、しかし今や大平市建設の機運にある平町の主務者として、兩者共最適任とは決して思はぬ、出來るものなら元郡長水野虎三郎氏あたりを引ぱり出したいものだと思うがどうだらう。

□

條件に依つては決して不可能事ではあるまい、然し兩者のうちより選ぶとすれば、俺は種々なる方面から觀察して勇敢に現町長の再選を主張する

□

某會社で廢材の拂下げを行つた處、買入れた鐵が一夜にフヤケ出して、買受け人の手元に到着した時は數量が大變增加してゐたと云ふ昭和怪談がいつこともなく噂にのぼつてゐる。東京には鐵管や砂糖を喰つたり、瓦斯を吸つたりする連中がゐるが、石城の天地も文化が進んで萬事東京式になつたらしい、だがこれは未だ困つた進歩ではある。

□

五六月中に各町村會議員の改選があるのでもう野心家連や政治ブローカーが活躍を初めたらしい、何を云つても磐銀平銀の壞滅で政友系の信望は極端に傷づけられてゐるので民政系の進出は町村を通じて目覺ましいものであらう。

□

ことに平町の如き民政四他二十六名が政友及無政友とで絶對多數を占めてゐた政友町の激變は思ひやられる。驕る平家は久しからざるものだて!!

謹賀新年

大一屋商店 平二丁目
芳香園油店 平町
近盛馬目酒店 平田町
仙臺屋靴店 平町
マルトモ柴田書店
磐城共濟病院 平町
平材木商業組合
松村病院 松村鉄郎 平町
永山和平 平町
上田外科醫院
比佐昌平
織田万次郎 平町紺屋町
木村清治
住吉屋本店 平町
金成金三 植田町
四倉町藝妓屋組合
古河鑛業株式會社
好間鑛業所
高久病院 平町

不德義極まる 舊魚市場非難とる

三千五百圓で權利を賣つても營業を續く

平町魚市場は從來不完全極まる組織にて、衛生上の見地より或は四丁目道路面に於て、しかも通學兒童の最も多き早朝に鮮魚賣買を行ひ、其の混雜甚だしく交通を防ぐる事多大なるのみならず、都市美觀の上からも全町の論難の的となつてゐたが、昨年來其の市場權利を買收したる株式會社平魚市場が、大工町に東北一と稱せられる模範的市場を開設したので、町長は會社の成功を祈ると共に舊弊の改善を心から喜びつゝあつたのである。然るに其の後市場權利を讓渡したる四丁目三國屋並に宍戸屋兩鮮魚問屋にて不法にも相變らず移轉したいと相談してゐた同已が店舗前に於て市場類似の營業を續行してゐるので、商業道德を無視した行爲として批難の聲が高い。

同市場は大正九年平町一丁目飯田一二氏から數名合同にて金三百圓の權利金を以つて買收したるもので、物價の高い當時三百圓で讓り受けた權利を會社に三千五百圓で賣り付け、而も依然として營業を繼續しつゝあるは不德義千萬なる所爲であると、同類似市場が蔭を消すのも遠くあるまいと町民の多數は其の日の一日も早からんことを期待してゐる。

諸橋久太郎氏 組合長當選

度量衡組合會

石城郡內度量衡商組合の創立總會は十五日午後一時から平署樓上に開き役員改選の結果組合長に諸橋久太郎氏が當選した。

▲武田支店長出發

東部電力株式會社平營業所長武田精氏は今回郡山支店營業課長に榮轉、その轉任を惜まれたが十六日午前平驛發赴任した。

植田町長 後任難

石城郡植田町長佐川龜太郎氏辭任に伴ふ町長後任問題は政爭激甚なる同町に於て町議十二名中政民六對六の現狀にある爲め容易に決する模樣も見えない、過般の協議會に於て大平、渡邊、豊田、古川の四氏を特別委員として熟議をこらせしも別に名案とてもなく、政爭緩和の一手段として一部には有給町長說を爲せし者あるも一蹴され、兩派未だ確たる候補者なく策士横行にまかしてゐる。

革新聯盟 新年宴會

革新聯盟に加盟してゐる鈴木昌雄、金古政通、石井英次郎、馬目雅治の四氏は新年宴會を十九日鈴木氏宅に開催し電氣料金問題及借家人組合に付懇談する由

財界漫談

麥人生

□

暮の二十七日から常磐銀行平支店で預金全額拂渡しを初めたので、預金の出入の情況を拜見したり、兎も角此處に事を運んだ當事者諸君に一片の敬意を表するために同行を訪れて見ることにした。

□

流石に多忙だが、預金者の多いのに先づ一驚を喫する、端山主事の前に積まれた紙幣の山、實は我輩恥かしながら幾らの金額に達するか見當がつかぬ、端山君に聞くと、六十萬圓ばかりと教へてくれる。

□

我輩不幸にして、こんな多額の紙幣を拜見したのは初めて或は今後其絶對無いかもしれむし、勿論手に觸れる事は間違つてもないらしい。少々大袈裟だが、此世の見納に一寸と觸つて見樣と、恐る〳〵一通り撫でゝ見る、然し妙に冷たい紙であつた。

□

山崎氏も高岡氏も、連日の奮鬪に面やつれが見える、それでも、先づ安心と云つた喜びの色が流れてゐる。革新聯盟の聲明書に就いて感謝の言葉をうけて、吾輩までいゝ氣になつて歸る。

□

四倉銀行も大部整理がついてあと五六萬の回收がつけば預金支拂に差しつかひなくなると云ふ、同行の事務長新妻君の言では、舊正月中には目鼻がつくとあつた。根が制合に堅實で、設立も日淺い關係上たいした不良貸付もないのだから、開業する事は確實であるが、一日も早く解決をつけたいものだ。

□

磐越の中野頭取は、最近銀行を除いては、門外不出で一意行運立て直し方策を練つてゐるが、何せ石城財界の傑物として智慧袋の大きな事にかけては追從者がないと謂はれてゐる人だけに、必らず近いうちに局面善轉を見るであらう

□

それにしても、此際同行支持者たる、預金者及取引人株主等は同行のためばかりでなく廣く石城財界の爲めを考へ、同行に對して同情的聲援と具體的援助を惜んではなるまい

□

七十七銀行平支店は、磐銀、平銀休業以來非常に發展を見たが、これは休銀の影響が同行の爲めに良く働いたばかりでなく、山田支店長、三浦副支配人の活動に依る点が多い從つて各方面に受けが良く、ことに花柳界には頗る評判がいゝ、しかしこの点丈けは善惡いづれとも云ひ難い。

□

それに內部に出入する者に變挺な連中があつて、一部の反感を買つてゐるようだ、得意の時が最も細心の注意を要するものがぐらひは萬々御承知である筈だが、そこは上手の手から水が漏ると云うものであらうか。

今に鄉土銀行の有難味を痛切に感ずる時が來る事を考へて水泡に歸したとは當然な事とは云へ、連中に取つて笑止の沙汰と云はれてゐる。

平署に於ても交通に支障を來すが如きは重大な事として嚴重取締りをなすゆなれば、不評判極る甚なる同町に於て町議十二名中政民六對六の現狀にある爲め容易に決する模樣も見えない、過般の協議會に於て大平、渡邊、豊田、古川の四氏を特別委員として熟議をこらせしも別に名案とてもなく、政爭緩和の一手段として一部には有給町長說を爲せし者あるも一蹴され、兩派未だ確たる候補者なく策士横行にまかしてゐる。

謹賀新年

縣會議員（イロハ順）
若松美三
野崎滿藏
山田崎吉平
古川傳一
鷲鳥清昇
鈴木辰三郎

山野邊東次郎 平五丁目
土浦町 岡本儀兵衛
佐川洋服店 平町
川井重之 豊間村
松田卯次朗
越乃家 平町

馬目尙治 平町
吉田正雄 江名町
萩原義雄 平町
佐藤善次郎
三井履物店 平町二丁目
第一城區郡 小學校長會
第二城區郡 小學校長會
第三城區郡 小學校長會
第四城區郡 小學校長會
第五城區郡 小學校長會

內鄉村白水 杉山炭礦 礦主 杉山今朝吉
內鄉村白水 不動澤炭礦々業所 高階一郎 菊地傳一郎

謹賀新年

有煙・無煙・各種石炭
高橋龜松
平町白銀町

株式會社平魚市場

平町研町（電話五二七番）
吉村製綿店

平町藝妓屋組合

小田炭礦株式會社
社長 萩原申八

島田三
平町

松本德一
平窪村

入山採炭株式會社
入山坑務所

山崎登
植田町

小名濱大敷網
郡司二郎

磐城水産工業株式會社
社長 小野晋平
支配人 福尾伊太郎

關内油店
店主 關内正一

安島重三郎

小玉川水力電氣株式會社

小名濱漁業組合
組合長 立花雄七

加藤丈夫營業所
平町白銀町（電話三二番）

山崎合名會社
電話一〇番・二七番

平町料理屋組合

平町會議員一同

平町公私立學校長
懇話會

湯本信用無盡株式會社

農工銀行平支店
阿部六三郎

七十七銀行平支店
山田勇太郎

市原病院
院長 市原卯太郎

平製氷株式會社
加納五郎

小松學俊
四倉町

平町三丁目
三井吳服店
電話三八番・七五一番

江口忠一

伊藤淺之助

小名濱町
町長 鈴木榮
助役 高木保